

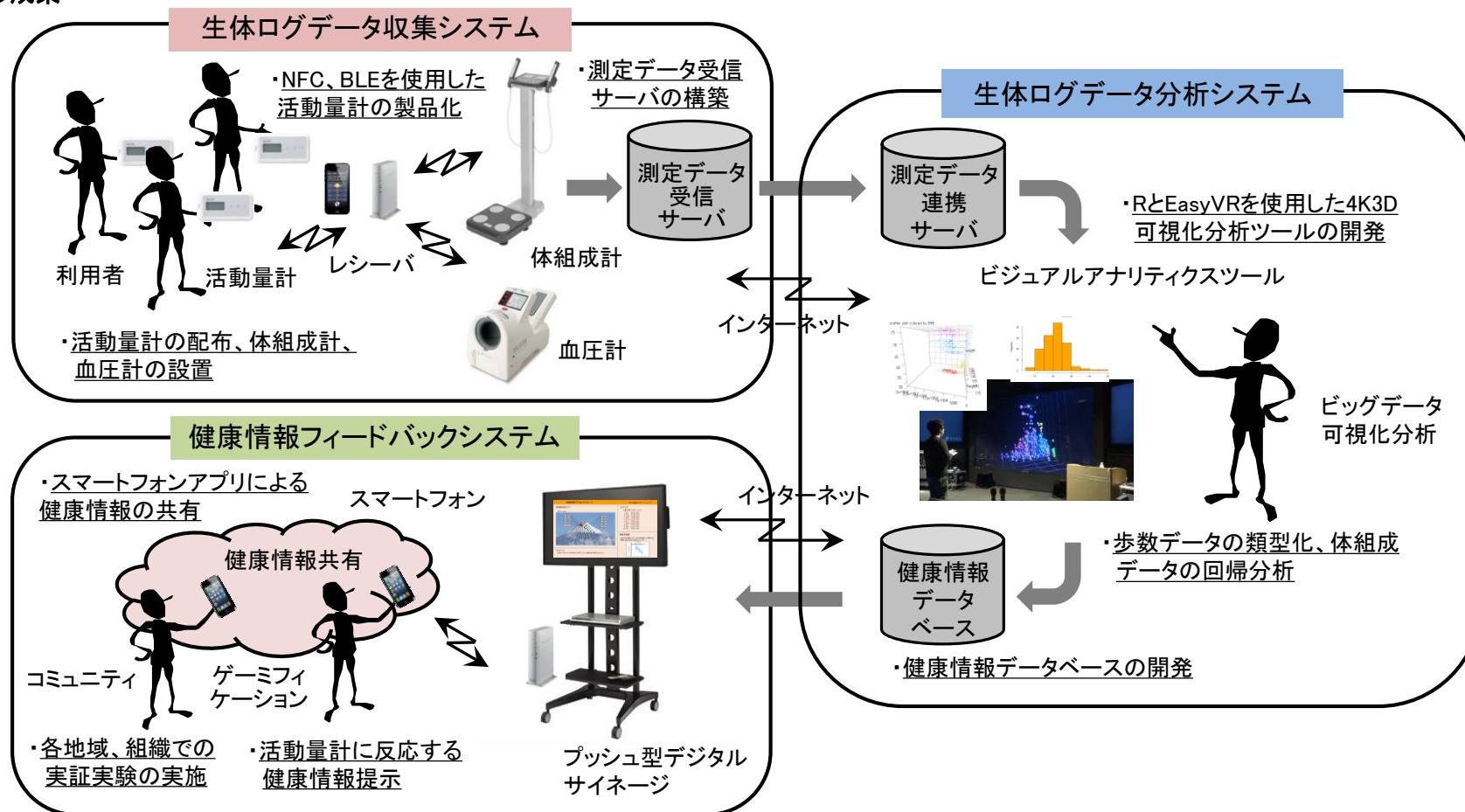
1. 研究課題・実施機関・研究開発期間・研究開発予算

- ◆課題名 : ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発
- ◆個別課題名 : ソーシャル・ビッグデータ利活用アプリケーションの研究開発
- ◆副題 : ヘルスリテラシー向上のための生体ログデータ分析に基づく健康情報フィードバックに関する研究開発
- ◆実施機関 : 慶應義塾大学(小木哲朗)、(株)タニタヘルスリンク
- ◆研究開発期間 : 平成26年度から平成29年度まで(4年間)
- ◆研究開発予算 : 総額 80百万円(平成28年度20百万円)

2. 研究開発の目標

本研究では、活動量を始めとする複数の生体ログデータを自動的に収集するシステム、蓄積された生体ログデータを可視化分析するシステム、分析結果をもとに健康情報を利用者にフィードバックするシステムの開発を行うことで、国民のヘルスリテラシーの向上を図ることを目標としている。

3. 研究開発の成果



4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等)

	国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
ヘルスリテラシー向上のための生体ログデータ分析に基づく健康情報フィードバックに関する研究開発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	51 (22)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※成果数は累計件数、()内は当該年度の件数です。

(1) 各地域での実証実験の開始

実証実験として慶應義塾大学内だけではなく、長岡市、和歌山県庁、総務省統計局、慶應志木高、武雄市小学校等の協力を得ることができ、各地域、各組織に対して活動量計の配布、体組成計・血圧計の設置を行うことで、いろいろな地域における多世代にわたる実験協力者を対象とした実証実験を開始した。

(2) 学会におけるセッション企画

日本行動計量学会第44回大会において「健康リテラシー向上と活動量・体組成等生体ログビッグデータの分析」と題した特別セッションを企画し、活動量と体組成データ分析、スマートフォンとデジタルサイネージによる情報フィードバック、実証実験の状況等について5件の研究発表を行った。また、第7回横幹連合コンファレンスにおいて「健康ライフログデータ分析とヘルスケア」と題したオーガナイズドセッションを企画し、活動量データ分析、体組成データ分析、ビジュアルアナリティクスツール、デジタルサイネージによる情報フィードバック等について4件の研究発表を行った。これらのセッションの企画により、本研究プロジェクトの成果発表を行ういい機会となり、参加者との有意義な議論を行うことができた。

5. 今後の研究開発計画

今年度までの作業により、生体ログデータ収集システム、生体ログデータ分析システム、健康情報フィードバックシステムの各サブシステムの基本機能の開発、およびデータベースを介した各サブシステム間の連携の基本フレームワークの構築を実現することができた。また、長岡市、和歌山県、武雄市等のさまざまな地域や組織の協力を得ることが出来、活動量計の配布や体組成計、血圧計の設置等の実証実験の準備を実施してきた。来年度は本プロジェクトの最終年度となるため、各サブシステムの機能や連携を向上させるとともに、都市部と地方、小学生から高齢者と幅広い被験者を対象としたデータ分析を実施し、それぞれの対象者の特徴の抽出、行動様式と健康状態との関係性の評価、各対象者への情報フィードバック等を行うことで、本提案手法の有効性に関する評価を行う。